

平成14年2月1日  
気 象 庁

## 三宅島の火山活動に関する火山噴火予知連絡会統一見解

三宅島では、山頂火口から二酸化硫黄を多量に含む火山ガスが依然として放出され続けています。

山頂火口からは、白色の噴煙が連続的に放出されており、噴煙に含まれる火山ガスの組成はほぼ一定に保たれています。二酸化硫黄の放出量は、変動はあるものの、長期的には減少傾向が続き、平均的な放出量は、1年で約3分の1に減ってきています。現在も1日あたり1～2万トンの高い値を保持しており、一時的に増加することもあります。

火山性地震や火山性微動（低周波地震）は依然として発生していますが、高周波の火山性地震の発生頻度はやや低くなっています。昨年11月以降、11月1日、本年1月23日に小規模な噴火がありました。小規模な噴火は、火山性微動（低周波地震）が活発な時期に発生する傾向があります。

収縮を続けている島内の地殻変動も長期的には鈍化傾向にあります。昨年9月以降一時的に加速することがありましたが、これは火山ガス放出量の変動と対応する可能性があります。

昨年11月から12月にかけて、火口内で高い温度が観測され、火映現象が山頂付近で観測されました。火映現象が見られたのは昨年1月以来のことです。重力観測によると、これはマグマの頭位の変動と対応する可能性があります。

以上のことから、火山活動は全体としては低下途上にありますが、今後も少量の降灰をもたらす小規模な噴火は発生する可能性があります。

火山ガスの放出量は、長期的には減少傾向にありますが、現在も高い値を保持しています。二酸化硫黄の濃度が高くなる場所は風向きにより異なりますので、風下に当たる地区では引き続き火山ガスに対する警戒が必要です。

また、雨による泥流には引き続き注意が必要です。